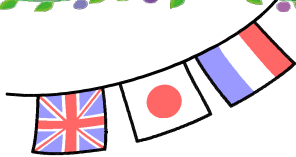




小田小だより

平成25年10月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校



「青いレモンの味」の記憶 ～小田小学校の運動会に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

十年一昔と言いますから、それはそれは随分と昔の話になってしまいます。『幼なじみ』という歌が流行ったことがありました。「幼なじみの思い出は、青いレモンの味がする・・・」の歌詞で始まるあの歌です。あの歌の何番目かに運動会の場面が出てきます。「・・・君は一等、ぼくはビリ。泣きたい気持ちでゴールイン。そのままうちまでかけたっけ・・・」

実は、小学校時代の私はかけっこが大の苦手で、いつもビリでした。1年生の時は、この歌詞のように、ゴールインすると莫菴（ごぞ）を敷いた席で応援している母親のところまで走っていき、抱きついて泣いたことがありました（信じられないかもしれませんが、小さい頃はたいへんな甘えん坊でした）。その時母親は、

「昭雄は、短い距離が苦手なんだよ。100m走とか長くなれば、追い越せるようになるから・・・」と言って励ましてくれました。母の言葉を信じながら、やがて100m走に出場する5年生を迎えました。しかし、やっぱりビリでした。その時母親が言った言葉。

「昭雄は我慢強い子だから、きっとマラソンなら追い越せるようになるから・・・」
何と優しい励ましの言葉だったことでしょう。

ところが、確かその日の夜だったと思います。父母の会話の中で、母親がふとつぶやいた言葉を耳にしてみました。

「一度でいいから、『リレー選手の母』になってみたいわ・・・」

当時極めて素直で母親思いだった私は、中学校に入学すると陸上部に入り、リレー選手を目指して練習に励みました。しかし、義務教育9年間で、母親を「リレー選手の母」にしてあげることが、残念ながら一度もできなかったのです。運動会の季節になると、いつもよみがえってくる青いレモンの味の記憶です。



あれから40年たった8年前のこと。小学校4年生になった息子が、何故か運動会のリレー選手になったのです。近所でも少しだけ噂になり、妻と二人で「リレー選手の親になった！」と大喜びをしました。当日は昼食に3段のお重を持って、息子の祖母ばかりか親戚までもが応援に来ました。

が、しかし、息子のリレーゾーンの使い方のミスから2人に抜かされてしまったのです。友達がバトンタッチをする前に力を出し切りふらふらになっていたにもかかわらず、息子は走り出し、リレーゾーンぎりぎりの所で足を止めてバトンをもらったのです。その間に2人に抜かされたのです。

私と妻は随分肩身の狭い思いをして帰宅することになりました。運動会のほろ苦い思い出がもう一つ増えてしまいましたが、息子にとっては失敗の経験が、相手の状態を理解してそれに応じて行動することの大切さを、ほんの少し学ぶことができたようでした。

さて、10月19日は運動会の日です。642名の子どもたち一人ひとりの頑張りや、642個のすてきな思い出を創ることでしょう。成功の思い出に越したことはありませんが、たとえ悔しい思い出であっても、子どもたちにとっては大切な成長に結びつく思い出となるに違いありません。

保護者の皆様、地域の皆様、どうか子どもたちの頑張りや温かいご声援をよろしくお願ひいたします。また、近隣の皆様には早朝からいろいろな面でご迷惑をお掛けすることと存じますが、何卒、ご理解とご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。